

秩父サイエンスアカデミー(研究発表)が行われました

2020.12.28 作成

今年で3回目になる「秩父サイエンスアカデミー(研究発表)」が、12月26日秩父看護専門学校の講堂で新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入場を30人に限定して行われました。日本薬科大学、非営利活動法人 NPU サイエンスアカデミア、秩父樹液生産協同組合、及び非営利活動法人秩父百年の森の主催、埼玉県秩父農林振興センター、秩父市の後援をいただいて開催されました。

日本薬科大学都築稔副学長の挨拶に続いて、秩父の森林や薬木の研究発表や高校生が長年取り組んでいる高校生の研究など5報の発表がありました。発表の内容は次のとおりです。

研究発表 (13時00分～15時30分)

☆発表1 秩父産キハダは COVID-19 重症化を防ぐ救世主になり得るか？

(日本薬科大学大学院 教授 樋口 敏幸)

☆発表2 第3のみつの機能性成分の研究

(埼玉県立秩父農工科学高校食品化学科3年新井徹平・今井海貴・荒船真優・糸瑠姫)

☆発表3 建築資材スギ・ヒノキの機能性

(日本薬科大学大学院 教授 高野 文英)

☆発表4 生きもの育む田んぼプロジェクト～田んぼからつながる ひろがる、生きもの、人の輪、地域の輪～

(NPO 法人かわごえ里山イニシアチブ代表、日本薬科大学非常勤講師 増田 純一)

☆発表5 森林の持つ多面的機能と森林環境に関する研究

(NPO 秩父百年の森 理事 斎藤 透)

意見交換 (15時30分～16時00分)

意見交換では、川越の里と秩父の山に取り組んでいる NPO どうしのコラボへの期待の意見や「第3の蜜」への質問もあり、高校生が丁寧に的確に会場の質問に答えていました。コロナ対策で寒い会場の中でしたが、参加者はコートやマフラーを身に着けて熱心に3時間に及ぶ発表に聞き入っていました。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場の窓を開け放ち、入場を30人に限定して行われた発表会は、多くの関係者が出席して行われました。



第3の蜜(特許済)の機能性について発表している県立秩父農工科学高校食品化学科3年の新井徹平君・今井海貴君・荒船真優さん・桑瑠姫さん。4月からは社会人として食品メーカーに勤務します。



新型コロナウイルスの後遺症の原因とされる血栓抑制とキハダ成分の効果について熱弁する樋口教授。



建材として使用されているスギとヒノキに含まれる成分と薬理効果について発表する高野教授。



食と健康につながるコメづくりヤマコモの栽培を通し、多くの大学や地域と連携した多角的取り組みについて発表している増田純一氏。このNPOの取り組みは2018年埼玉環境大賞を受賞しました。



長年の林業行政に携わった立場と現在、自ら山の生態調査を続けている齋藤透氏の発表。シカ等の鳥獣被害が深刻の中、森林の適切な管理・保全について提言されました。

今年は、夏に予定していた「秩父サイエンスアカデミー(実験の部)」は、コロナ感染防止のために中止、薬物乱用防止が上尾市立南中学校で開催されました。また、研究支援では、県立秩父農工科学高校食品化学科生徒の機器分析研修、県立熊谷西高校理数科のSSH支援が実現しました。